

南九州におけるモンズズメバチの多産地

河野太祐・山根正気

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学理学部生物多様性学講座

■ はじめに

モンズズメバチ *Vespa crabro* Linnaeus は旧北区に広く分布する中型のスズメバチであり、北米にも移入個体群が知られる (Archer, 2012; Kimsey and Carpenter, 2012). 国内では、北海道から九州まで広く分布することが知られるが、九州における生息地に関する情報は乏しい。鹿児島県では、長瀬 (1982) が 1978 年からあしかけ 5 年間で有剣ハチ類の分布を調べたが本種を記録していない。その後のおよそ 30 年間も本種の記録は皆無であったが、2009 年に県北部の始良町からペイトトラップによって 1 個体が得られた (渡邊ほか, 2009)。

筆者らは昨年、宮崎県えびの市の沢原高原において本種の多産地を確認した。この生息地では、わずか半日の調査にもかかわらず、南九州に分布するスズメバチ属全種が得られた。また沢原高原の鹿児島県側 (湧水町) においてもモンズズメバチの生息が確認された。沢原高原はスズメバチ類の保全にとって極めて貴重な地域であると考えられたので、同地域におけるモンズズメバチおよび他のスズメバチ属の生息状況を簡単に報告する。

■ 調査地と調査方法

沢原 (さわら) 高原は鹿児島県湧水町と宮崎県えびの市にまたがって広がり、栗野岳の北西、

標高 500–600 m に位置する草原である。同地は毎年春に野焼きが行われ、植生の遷移が進まず草原環境が維持されている。このように、大規模な草原環境が残されているため、オオウラギンヒョウモンやユウスゲに代表される草原性の希少な動植物の生息地として知られている (福田, 1997)。ハチ類では近年、全国的な希少種であるフジジガバチ *Ammophila atripes japonica* Kohl の生息も確認された (長利・長利, 2012; 河野・山元, 2013)。

沢原高原は陸上自衛隊の霧島演習場としても利用されているため、入域できる日時、時間が限られる。調査日程は、えびの市のウェブサイトを開覧し、演習がおこなわれないことを確認し、決定した。

2013 年 9 月 24 日、河野および山根がえびの市側で草原内に孤立するクヌギ林の樹液に集まる個体や、訪花・飛翔する個体を任意に採集、観察したほか、夜間の灯火採集もおこなった。同年 10 月 1 日には山根が鹿児島県側の湧水町にて短時間の調査を実施した。

標本の所蔵：鹿児島県側で採集されたモンズズメバチのワーカー (1 個体) は鹿児島県立博物館、それ以外の標本 (本種を含むスズメバチ 5 種) は鹿児島県立博物館、大阪市立自然史博物館、北海道大学総合博物館、河野個人コレクションに所蔵される予定である。8 月に採集されたモンズズメバチの標本は二町・塚田両氏が保管されている。

■ 結果

宮崎県えびの市側においては、モンズズメバチ *Vespa crabro flavofasciata* Cameron の働きバチと雄バチ (Figs. 1–6) 多数がクヌギの樹液を訪れて

Kawano, T. and Sk. Yamane. 2014. *Vespa crabro* Linnaeus in southern Kyushu, Japan (Hymenoptera: Vespidae: Vespinae). *Nature of Kagoshima* 40: 107–109.

✉ TK: c/o Prof. Seiki Yamane, Department of Earth and Environmental Sciences, Kagoshima University, 1–21–35 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: pseudoidatenankafu@gmail.com).



Figs. 1–6. *Vespa crabro* Linnaeus from Sawara plateau, southern Kyushu, Japan—1. worker dorsal view; 2. male dorsal view; 3. worker head frontal view; 4. male head frontal view; 5. worker lateral view; 6. male lateral view.

いるのが観察された。日没前後の薄暮時にも樹液を訪れる個体がみられ、また日没後にはライトに多数の働きバチが飛来した。鹿児島県湧水町ではやはりクヌギの樹液を訪れた働きバチ 1 個体を得ることができた。

モンズズメバチのほかに、キイロスズメバチ *Vespa simillima xanthoptera* Smith (えびの市)、コガタズメバチ *Vespa analis insularis* Dalla Torre (えびの市)、ヒメズズメバチ *Vespa ducalis pulchra* du Buysson (えびの市) (Fig. 7)、オオズメバチ *Vespa mandarinia japonica* Radoszkowski (えびの市, 湧水町) が得られた。これらの内、クヌギの樹液に頻繁に訪れていたのは、モンズズメバチ、ヒメズズメバチ、オオズメバチの 3 種であった。樹液が大量にでている木や部位は限られており、オオズメバチが飛来すると他の 2 種は追い出されるケースが多かった。コガタズメバチとキイロスズメバチではほとんどのケースで訪花あるいは飛翔中の個体が採集された。

■ 考察

沢原高原のモンズズメバチに関する情報は、2013 年 8 月に蛾類の夜間採集を行った際に多数飛来したモンズズメバチを採集した二町一成・塚田拓氏によりもたらされた。本種は日本産ズメバチ属のなかでは唯一夜行性も示す種である(松浦・山根, 1984)。したがって、本種の分布情報を得るには蛾類の研究者と緊密な連絡をとる必要がある。通常、ライトに飛来した本種は採集の妨害者として踏みつぶされ、標本が残ることは少ない。破損していても最低 1 個体持ち帰るよう蛾類研究者に周知しておくことが望ましい。

今回発見されたモンズズメバチの多産地は、草原の中にある散在するクヌギ林の一つであり (Fig. 8)、二町氏が夜間採集をされた場所と同一である。樹液が春から秋まで豊富にでる木の存在は、モンズズメバチのコロニー維持の重要な要因になる。狩りの対象としてはセミを好む傾向があ



Fig. 7. *Vespa ducalis pulchra* du Buysson visiting sap of *Quercus acutissima* Carruthers. Sawara plateau (Miyazaki Pref. side), 24 Sept. 2013 (photo by Sk. Yamane).



Fig. 8. Forest of *Q. acutissima* Carruthers, in Sawara plateau (Miyazaki Pref. side) where many *Vespa* spp. were collected.

るが、沢原高原周辺のセミに関する情報は少ない。本種は主に樹洞営巣性であるが、沢原高原には営巣できるほどの大木は見当たらない。まれに引越し後の成熟巣が木造家屋の軒先や屋根裏で見つかることもあるが（松浦・山根，1984），ここにはそのような環境はない。おそらく、沢原高原の外に位置する照葉樹二次林に営巣地があり、クヌギ林まで通っているものと想定される。沢原高原を車で回ってみたが、樹液を豊富に出すクヌギが多く、かつ営巣場所となる照葉樹林が比較的近くに位置するのは、この場所だけであった。ヒメスズメバチとオオスズメバチはおもに土中営巣，コガタスズメバチはおもに樹枝営巣，キイロスズメバチは閉鎖・開放いずれの場所も利用するので、このクヌギ林内や周辺でも営巣している可能性が高い。

モンズメバチは近年、日本各地で個体数を減らしているといわれ、生息状況のモニターが重要になっている。そのような中で元来本種の生息数が少ない南九州において、多産地が見つかったことは注目に値する。

■ 謝辞

貴重な情報をもたらされた二町一成・塚田拓両氏、また今回の調査に同行されたに二町氏に深謝の意を表す。また、調査を手伝ってくださった福田晴夫先生と中峯浩司氏にもお礼申し上げます。

■ 参考文献

- Archer, M. E. 2012. *Vespine Wasps of the World: Behaviour, Ecology & Taxonomy of the Vespinae*. Siri Science Press, Manchester. 352 pp.
- 福田晴夫, 1997. 南九州沢原高原におけるオオウラギンスジヒョウモンの生態と保護 (2). *Butterflies*, (17): 22-32.
- 河野太祐・山元宣征, 2013. 希少種フジジガバチ（ハチ目：アナバチ科）の九州における生息環境について. *Nature of Kagoshima*, 39: 109-111.
- Kimsey, M. S. and Carpenter, J. M. 2012. The Vespinae of North America. *Journal of Hymenoptera Research*, 28: 37-65.
- 松浦 誠・山根正気, 1984. スズメバチ類の比較行動学. 北海道大学図書刊行会, 札幌. xvi+428 pp., 4 pls.
- 長瀬博彦, 1982. 南九州の蜂—4—. *蜂友通信*, (14): 57-78.
- 長利貴大・長利京美, 2012. フジジガバチを始良郡湧水町で2011年, 2012年に採集. *SATSUMA*, (148): 264.
- 渡邊尚一・川口エリ子・佐藤嘉一・白井陽介, 2009. 森林技術総合センターにおいてペイトラップで捕獲されたスズメバチ科昆虫. 鹿児島県森林技術総合センター研究報告, 12: 24-26.